

身近なペットによる感染症 ——リスクから予防まで



今岡浩一（国立感染症研究所獣医科学部第一室 室長）

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶ 登録手続

1. 愛玩動物の飼育とそのリスク p2
2. 愛玩動物由来感染症の種類と発生状況 p4
3. 愛玩動物由来感染症に関する各論 p9
4. 予防を考える p24

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

1 愛玩動物の飼育とそのリスク

近年、ヒトと愛玩動物の付き合い方に質的变化がみられる(図1)¹⁾。たとえば、飼育環境は室内飼育が増え、単なるペットではなくコンパニオン・アニマルとして、より濃密な関係を築いている。

動物との距離が近くなるほど、愛玩動物由来感染症のリスクは高くなる

- ・コンパニオン・アニマル：より濃密な関係
- ・飼育環境の変化：室内飼育
- ・ペットの多様化：エキゾチックペット
- ・免疫学的弱者(高齢者、幼児、免疫抑制薬の使用者など)の増加

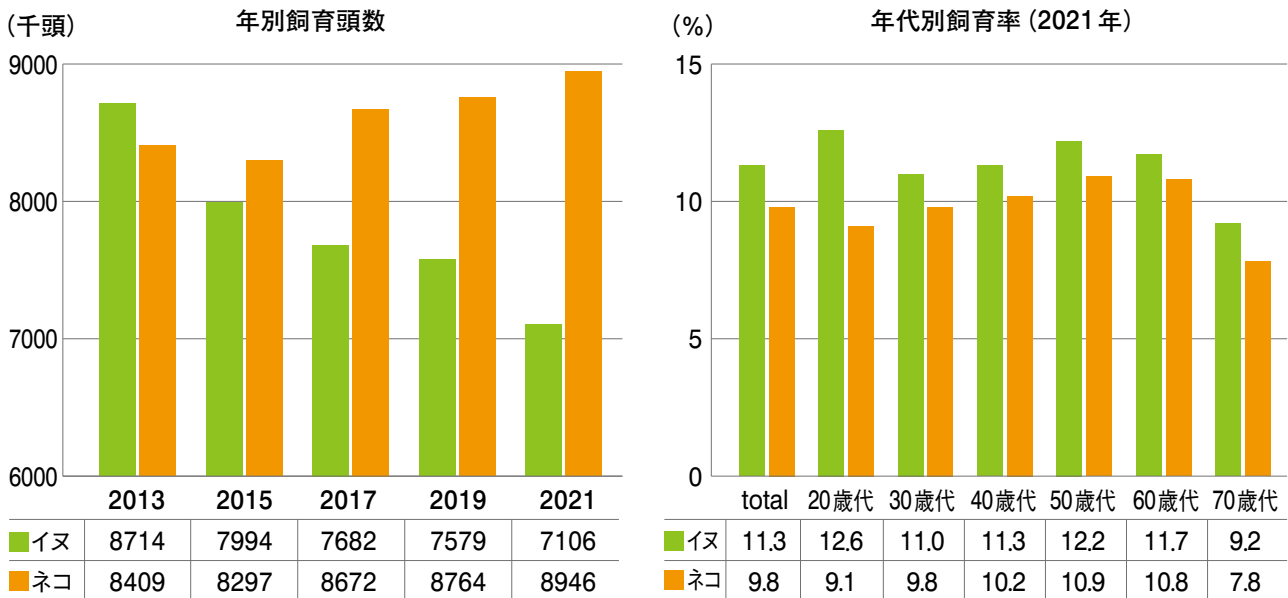


図1 ヒトと動物との付き合い方の質的变化

(文献1より作成)

愛玩動物の中で最も身近なものはイヌ、ネコであるが、ペットフード協会の調査によると、2021年にはイヌ約711万、ネコ約895万頭が飼育されている¹⁾。さらに日本では、愛玩動物はイヌ、ネコ、小鳥、金魚にとどまらず、元来、野生動物であったエキゾチックペットであるげっ歯目、インコ・オウム、は虫類、両生類など、多種類の動物が飼育されている。

さて、愛玩動物の飼育は、実は種々のリスクを負うことにほかならないのだが、広く認知されているとは言いがたい。古なじみのイヌ・ネコでさ

え、日常的に起こりうるのが咬搔傷などの物理的事故である。動物咬傷の60%がイヌによるものと言われる。米国では約6800万頭のイヌが飼われており、年間約470万人がイヌに咬まれ、約80万人が医療機関を受診し、約6000人が入院するという報告がある²⁾。日本では、環境省によると年間4602件(2020年度)のイヌ咬傷事故が報告されている(図2)²⁾³⁾。

米国

- ・イヌ咬傷：約470万人/年
- 医療機関の受診：約80万人/年
- 救急診療：約33万人/年
- 入院：約6000人/年
- ・ネコ咬傷：約40万人/年

日本

- ・イヌ咬傷：4602人/年(2020年度)

感染症への発展

- ・イヌ咬傷：4～20%
- ・ネコ咬傷：20～50%

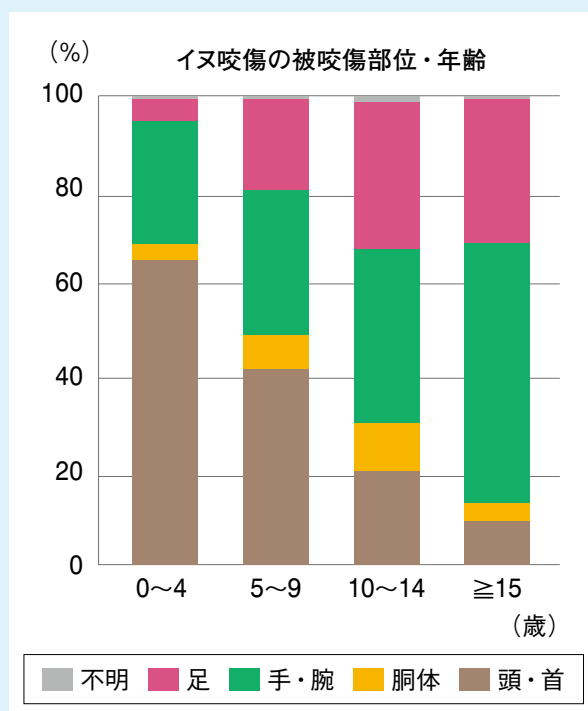


図2 イヌ・ネコ咬傷の現状

(文献2, 3をもとに作成)

5万人を対象に筆者らが行ったインターネットアンケート調査では、28% (1万3983人) が咬搔傷を経験しており、さらにそのうち12.6% (1761人) が、発熱、倦怠感、患部の腫脹など、何らかの症状を経験していた。つまり、実際には環境省の統計よりもっと多くの咬傷事故やそれに伴う感染症が起きていると推定される(図3)。なお、イヌ咬傷の4～20%、ネコ咬傷では20～50%が、傷口から侵入した病原体により感染症を発症すると言われる。イヌ咬傷事故では、成人の場合は手足ですむが、乳幼児

は頭や首を咬まれることが多く、たとえ感染症を発症しなくても重篤な外傷を負うことになり、注意が必要である²⁾。

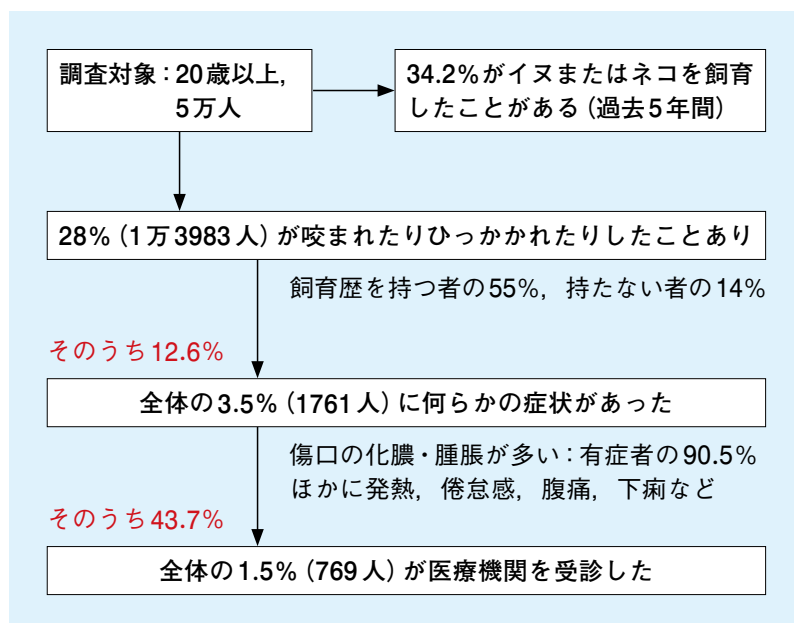


図3 イヌ・ネコ咬搔傷由来感染症に関するインターネットアンケート調査

また、動物アレルギーも考慮すべきリスクである。ウサギやマウスなど動物の毛に対するアレルギーはよく知られているが、重篤なものではハムスターの唾液成分に対するアレルギーがある⁴⁾。咬傷によりアレルゲンが体内に入って感作されて発症するが、アナフィラキシーショックによる致死症例も報告されている。

2 愛玩動物由来感染症の種類と発生状況

国内で起こりうる愛玩動物由来感染症を表1～3に示した。非常に多くの感染症があるが、実は、感染症法の対象外である疾患のほうが患者数は多いと推測される。また、細菌感染症が多く、ウイルス感染症は少ない。ウイルス感染症には、マールブルグ病、ラッサ熱、サル痘、ハンタウイルス肺症候群、狂犬病など重篤なものがあるが、現在、日本では感染源動物は輸入検疫、輸入禁止、輸入届出制度の対象になっており、国内感染によ

る発生は認められていない。

特殊なもの(たとえば結核)は、患者から飼育イヌに感染し、そのイヌから別の人に感染を広げることがある。このように、ヒトの感染症の病原体が「感染者-動物-別のヒト」と感染することを「再帰性感染症」と言い、結核、カンピロバクター症、アメーバ赤痢、ジフテリア、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* : MRSA) 感染症などが知られている⁵⁾。

実は、イヌ・ネコは重要な感染源動物

表1 愛玩動物由来感染症の種類と感染源動物

病原微生物	病名	感染症法	愛玩動物				
			イヌ	ネコ	鳥類	ウサギ・げっ歯目	は虫類・両生類
ウイルス	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	4類	○	○			
	狂犬病* ¹	4類	○	○		○	
	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)* ²	新型* ³	○	○		○	
	パストツレラ症	—	○	○			
	ネコひっかき病	—	○	○			
	カプノサイトファーガ感染症	—	○	○			
	コリネバクテリウム・ウルセランス感染症	—	○	○			
細菌	ブルセラ症	4類	○				
	サルモネラ症	—	○	○	○	○	○
	エルシニア症	—	○	○	○	○	○
	カンピロバクター症	—	○	○	○	○	
	レプトスピラ症	4類	○	○		○	
	鼠咬症	—				○	
	野兎病	4類		○		○	
	結核* ²	2類	○	○			
	ペスト* ¹	1類	○	○		○	
	リケッチア・クラミジア	オウム病	4類			○	
	Q熱	4類	○	○	○	○	
真菌	クリプトコックス症	(5類* ⁴)			○		
	皮膚糸状菌症	—	○	○		○	
原虫	クリプトスポリジウム症	5類	○	○		○	
	トキソプラズマ症	—		○			
	ジアルジア症	5類	○	○		○	
寄生虫	エキノコックス症	4類	○				
	ウリザネ糸虫症	—	○	○			
	イヌ糸状虫症	—	○	○			
	イヌ・ネコ回虫症	—	○	○			
	東洋眼虫症	—	○				

日本ではウイルス感染症は少ない

細菌感染症が多い

感染症法で指定されていない感染症に、むしろ患者が多い

* 1: 現在国内感染のないもの

* 2: 報告のほとんどが動物由来以外。ただし、再帰性感染症としてのリスクがあることから記載

* 3: 新型インフルエンザ等感染症

* 4: 5類は播種性クリプトコックス症の場合